

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 飛幡 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、2年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動と一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

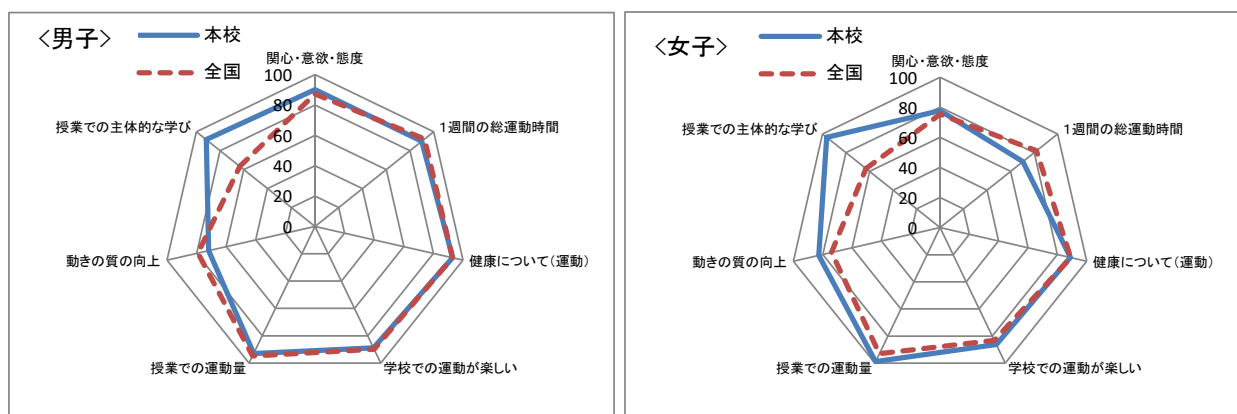
2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

男女ともに『授業での主体的な学び』が平均値を大きく上回った。
それに対して、男子では『動きの質の向上』、女子では『1週間の総運動時間』が平均値を下回った。主体的な学びの中にも教師によるきめ細やかな指導に重点を置き、子供たちの意欲が「動きの習得」や「自ら運動する機会」につながるよう授業改善していくことが課題である。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で)

「課題はスモールステップで系統的な提示」、「動き習得に向けた場の工夫」、「学習カードの振り返りからつまづきを正確に把握」など、具体的な手立てによって動きの質の向上を実感できることを目指す。
また、ICTを効果的に活用し、課題を明確にすることで動きの習得を目指す。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

興味・関心を喚起するスポーツ関係の掲示物を充実させる。
家庭において「親子でできる運動」の紹介を行うなど、情報を発信し啓発させる。